



Press Release

2015年3月17日

共同記者発表資料：NPO 法人四国自然史科学研究センター / WWF ジャパン

絶滅寸前の四国のツキノワグマ 仔グマの順調な成長を確認

認定 NPO 法人四国自然史科学研究センターおよび WWF ジャパン(公益財団法人世界自然保護基金ジャパン)は、四国の剣山山系で実施しているツキノワグマ調査によって、2013 年冬期に生まれた仔グマが親離れをし、1 歳まで無事に成長をしている事実を確認した。これは、わずか数十頭が生き残るのみといわれる四国のツキノワグマが確実に繁殖し、成長していることを裏付けるものであり、個体群の未来と保護活動にとっては朗報である。

四国自然史科学研究センターと WWF ジャパンは、2012 年 7 月から「四国地方ツキノワグマ地域個体群絶滅回避のための総合調査」を共同で実施し、2014 年 9 月には、親離れしたばかりの 1 歳のツキノワグマの亜成獣を捕獲した。

この度の血液調査などによって、捕獲した仔グマは、2012 年 9 月から追跡してきたメスのツキノワグマ「ショウコ」が、2013 年冬期に生んだ 2 頭のうちの 1 頭であることが明らかになった。

ショウコ親子は 2013 年 4 月、冬眠穴で母グマと戯れる生後数カ月の仔グマの様子が観察・撮影され、同年 10 月にも、林野庁の四国森林管理局が設置した調査用の自動撮影カメラに元気な姿が捉えられていた。さらに今回の捕獲・調査によって、仔グマは立派に親離れし、剣山山中で成長していることが確認された。

仔グマの成長の確認は、絶滅が懸念される四国のツキノワグマ個体群の、確実な繁殖と若い個体の成長を裏付けるものであり、個体群の未来と保護活動にとっては朗報である。また、血液などからの DNA 鑑定により親子関係を明らかにする試みは、今後の個体群動態を調べる上で重要な手法になると期待される。

なお、調査では通常、捕獲したクマに発信器を付け、その後の行動を追跡するが、今回は捕獲個体が幼く小さかったため、調査チームは計測や採血などの作業のみにとどめ速やかに山野に戻した。

調査に携わる四国自然史研究センターの山田孝樹氏は、「生息中心地域で新しく生まれてきた個体が、成長過程とともにどのように周辺地域に拡散していくのかは未だにわかっていない。この課題は個体群の存続と密接にかかわっているだけに、今後積極的に調査してゆきたい」とコメントしている。

総合調査では今後も、四国のツキノワグマの生態や行動範囲、さらには生息域の餌資源量の把握を通じ、保護区等に設定すべきエリアの選定や、保全策の実施につなげてゆく取り組みを目指す。

■この件に関するお問合せ：

WWF ジャパン 自然保護室 那須嘉明 Tel: 03-3769-1713

広報室 Tel: 03-3769-1714 E-mail: press@wwf.or.jp

プレスリリースと関連資料は WWF ジャパンのウェブサイトでもご覧いただけます

WWF(世界自然保護基金)は、世界約100カ国で活動している地球環境保全団体です

WWF- World Wide Fund For Nature

for a living planet®